



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol. 109

「奏者の幻華」

昭和47(1972)年

パリ留学中に師事したアペル・レ・フェノサの「彫刻は詩でなければならない」の教えを受け、中村が帰国してから挑戦したのが、蠟(ろう)を素材にした作品でした。板状にした蠟は温度が高すぎるとへたってしまい形を成さず、また温度が低すぎると硬直して造形が難しい素材ですが、当時、中村の制作に協力していた東京の鋳物師は、瞬く間に作品を作り上げる中村のデッサン力とテクニックに感服したそうです。

奏者の奏でるフルートの音色まで表現しているかのような、詩情あふれる作品になりました。



(高さ) 140cm × (幅) 100cm × (奥行) 55cm
中村晋也美術館

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

佐野 健治さん
(本町)



特定非営利活動法人夢想会、夢想工房理事長。将来実現したいことやこんな生活をしたいといった「夢」を抱けるよう、利用者を木に見立て、目と心で「想」いながら、親とともに育む気持ちを法人名に込める。水耕栽培では、人気のリーフレタスやホワイトセロリのほか、新たにモロヘイヤやパクチーの栽培に挑戦しながら活動を展開。

次なるステップとなる居場所をつくりたい

平成16年に「夢想工房」を立ち上げ、障がい者の就労を支援する心身障害者施設(現在の就労継続支援B型事業所)を市内に初めて開所。「学校卒業後、すぐに就職できない人や就職したが解雇された人たちが、自立に向けてゆっくりと頑張れる場所をつくりたかった。職員と利用者が同じ目線に立ち、時には温かく、時には厳しく接してきました」と佐野さん。それはひとえに、利用者が、さまざまなことにチャレンジすることで、生きがいを見い出してほしいとの願いからです。

リーフレタスなどの水耕栽培で農業と福祉の連携に先駆けて取り組んできたほか、職員と一緒に三重とわか大会2021(未開催)にあわせバレーボールチームを立ち上げ、令和17年に三重県で開催予定の第89回国民スポーツ大会に向け、練習に励んでいます。

自立した生活に必要な力を培ってほしいとの思いから、通所は親の送迎ではなく、

バスなどで通うことをルールとしましたが、共働き家庭の定着化に伴う送迎希望や安全面の優先などにより通所人数は減少。そのような中、これまで20人以上を就労につなげたなど一定の役割を果たしたとして、今年3月、就労継続支援B型事業に幕を下ろしました。



現在、夢想工房は、市の参加支援事業に登録され、活動中。「今年3月まで不登校だった生徒が、ここでは休まず通えるようになって、今は市内の飲食店でアルバイトしているんだよ」と目を細める佐野さん。「働くことが難しい制度のはざまの人へ、何度でも就労にチャレンジできる居場所がここにもあることを知ってほしい」。佐野さんの挑戦は、これからも続きます。